



**La nascita, la diffusione
e i fondamentali de le Parole ritrovate**

『再発見される言葉たち』

誕生・発展の経緯

その原則

Massimo Costa

マッシモ・コスタ

Kagoshima, 6 aprile 2024

2024年4月6日 鹿児島



『再発見される言葉たち』の発足は2000年。
当事者の声に耳を傾けず
彼らの人生を地域生活の隅っこに追いやるような
精神保健のあり方に
納得できない者たちが結成した
小さなグループから、始まった。



『再発見される言葉たち』の誕生意義

当事者が自らの言葉を再発見する機会を創出する！！

『再発見される言葉たち』の第1回全国大会は、この意義と共に、トレントにて開催された。



LE PAROLE RITROVATE



2000年10月



第1回『再発見される言葉たち』大会は
想定外の成功で、400名の参加者があった。
決して輝かしいとはいえないイタリア精神医療界に
かつてない新しい試みが行われている、と
参加者たちは感じたのだ。



大会の“成功”は、参加者数だけではない。
この大会が「交流できる雰囲気」であったことがその要因だ。
予定調和的に仕組むことなく、
友好的な雰囲気、そして自由が感じられた。

参加者は自らのことを話す—それは光であれ影であれ
自らの人生を織りなす大切な出来事だ。
そして自分のことを話すとき、
人は攻撃的にならないものだ。
これに対し、他者への不満をぶちまけるとき
不毛な攻撃性が発露しやすい。
職員会や家族会が不満をぶちまけるだけの会になってしまうの
は今日でもよく見られることだ。



「“再発見される”言葉とは、当事者の言葉である」という考えが、私たちには当初からあった。

手探りで発足させた第1回大会だったが、私たちの取るべき道は、精神保健に関わる全ての人々—当事者・家族・職員・専門職・市民—の声と存在に光を当てること。それを、お互い対等な立場で為すことだと分かった。

この“進むべき道”が、『再発見される言葉たち』を特徴づける要素となり、イタリア精神医療界で特別な運動となっていく。



この大会が持つ重要性を理解するのに時間はかからなかった。
24年前と変わらず今日も、
ほとんどの参加者は、このような感想を残してくれるからだ…

「会場に来たときの私の心には苦しみや絶望があった。
そしていま帰路につこうとしている—もちろん二、三日で私の抱える問題は
解決しないものだけれど、多様な参加者たちから、
なんと豊かな経験を得て私は帰路についていることか！
“信頼と希望”を道標にして、
自分そして家族は人生を再び歩み出すことができる、と理解しました。
そんなことはもう無理だと思っていたのです…」





基本フォーマット：誰もが言葉を呈する権利を持っている

話したいと欲する人は、話していい
人生で良かったこと、辛かったこと、
自分にとって大切なこと、聴衆にとって有益なこと…

秘訣（重要！）

「なるべく多くの人が話す—たとえ持ち時間が少なくとも！」

大会の雰囲気：自由&友好的

参加者が皆くつろいで、自由な雰囲気で楽しめるように



『再発見される言葉たち』の展開

●全国大会（年1回）：毎回500名以上が参加。当運動が提唱する
ファーレ・アッシエーメ手法に基づく各々の体験を、
相互交流できる場である。

●各地での開催（数多い）：通常は何かしらテーマを決めて開催す
る。例えば；居住、就労、リカバリープロセス、当事者と薬物療法、
良い治療など。

イタリア国内および海外の当事者、職員や専門職、家族、市民たち
が

お互いに出会い、交流する場であることが、
精神保健サービスや関連団体に

『再発見される言葉たち』が浸透する原動力となっている。



LE PAROLE RITROVATE



全国大会 2012年@ミラ



『再発見される言葉たち』の4原則

- 当事者、精神保健に関わる全ての人々に言葉を与える
- なるべく円形で話し合う
- 各自の持つ経験知を持ち寄る
- ポジティブな雰囲気をはげめる



『再発見される言葉たち』は発足当初から
ファーレ・アッシエーメ手法と深い関係がある。

トレントで2000年に誕生したこの手法は、
ほどなくイタリア全土で認識されることになる。

(ファーレ・アッシエーメについては前日の講演で詳しく話したとおり)

わずか数年で、
『再発見される言葉たち』は
イタリアの全国的な運動となり、
ファーレ・アッシエーメを標榜する関連団体の
拠りどころとなった。



LE PAROLE RITROVATE



『再発見される言葉たち』使節団を歓迎する
ノルウェー保健省（2015年@オスロ）



『再発見される言葉たち』の世界観を構成する信条：

- 変革はいつでも可能だ。
- まずなにか使える資源があるかどうか見てみよう。悩まされている問題はその次だ。
- 信じること、そして希望を持つこと。
- みんなが全ての局面に参画すること。
- 参画する皆に声を、知識を、責任を、人生の主体性を与えよ。まず当事者から始めよ。
- 経験知に価値を置く。精神保健に関わる全ての人の経験知—専門職の知識、当事者およびその家族の経験。

大切なのは、あらゆる面で、
常に当事者&家族と協働すること



『再発見される言葉たち』の世界観を構成する信 条：

- 2つの知識が混ざり合う特別実験室を醸成することで、関係者全員のクオリティ・オブ・ライフと健康が更に向上する。
- 対等な支援は素晴らしい。そこにESPがいると素晴らしい成果を生む。
- 治療プロセスに、分かち合いと対等な関係性を。
- プロジェクトは協働で、治療も一緒に考えて実施する。
- リカバリープロセスに一貫性と透明性を与えよう。
- 前向きな雰囲気や常を作るよう心がければ、素晴らしい成果を生む。

大切なのは、あらゆる面で、



『再発見される言葉たち』の世界観が求めるもの：

- この価値感と治療アプローチで精神保健サービスを啓蒙し、そして地域も連動させていこう。
- 精神疾患に対するスティグマ、偏見に対し“スペシャルイベント”を企画し、メディアを通じた効果的なインパクトを考えよう。

トレントの例：

- 総勢208人の当事者・家族・市民・職員によるヴェネツィア～北京の旅
- ケニヤのムイェイエに学校建設
- インドのコチに精神保健センターを開設する
- ファーレ・アッシエーメの啓蒙、研修等の活動をやってみる。

大切なのは、あらゆる面で、

常に当事者・家族と協働すること



2023年パヴィアでの全国大



『再発見される言葉たち』の組織

『再発見される言葉たち』は、協会や組合ではない。
つまり法的根拠で設立された機関ではなく、
“運動（ムーブメント）”

原則と目的に共感し分かち合う人々・グループが参画する
“運動”。

オフィシャルな役職、規則、取締役会の類いは存在せず、
全ては直接民主主義で決定。



『再発見される言葉たち』の組織

『再発見される言葉たち』は、以下の3つの形態で意思決定が為される

1. 全国イベント運営グループ

通常2ヶ月に1度のミーティング。参加したい人は誰でも参加可。オンライン会議もしくは実際に集合しての話し合いで、全国規模のトピックにふさわしい内容を協議。出席者の過半数を基として決定を行う。

2. 地方イベント運営グループ

各地方で活発にそれぞれ組織が動いている。その地方で話し合うべきトピックがあれば、適宜ミーティングを開催。例えば『再発見される言葉たち』の地方大会を開催したい等。

3. 年度の統括およびプログラム会合

ここでは『再発見される言葉たち』運動に深く関連するメンバーが集う。毎年1月に実際に会って話し合う、2日間続くミーティング。昨年の実績報告、本年度に実行すべき重要な事柄について議論する。『再発見される言葉たち』運動の生命線を支える重要な会合である。



ここまでを端的に要約すれば

『再発見される言葉たち』は、各参画者の強い想いによって誕生し、各々が出来ることを持ち寄ることで、現在も活動を続けている。

そこには、確かなファーレ・アッシエーメの手法が用いられている。

イタリアの多くの関連団体が、その原則と実践を広めることに努め、当該アプローチは精神保健界にインスピレーションを与え続けている。

精神保健の世界に属する当事者・家族・職員・市民の関係は、ファーレ・アッシエーメを介して改善し、提供される治療、クオリティ・オブ・ライフの向上が実現！



特別イベント: 『再発見される言葉たち』 シロ・ディ・イタリア

この運動を浸透させていくために、『再発見される言葉たち』のシロ・ディ・イタリア(有名なイタリア縦断自転車ロードレースのもじり)を組織した。20~30回程度の『再発見される言葉たち』集会を、イタリア各地の主要地域で2~3ヶ月の期間に集中して開催することに特色がある。数千人規模の参加者が集うイベントとなった。

最もめざましい成果があったのは2008年。

最北のフリウリ州から、最南端シチリアまで、実に33回の集会を開催。シチリア州エトナ(欧州随一の活火山がある)が最終開催地であった。

2011年、2012年にもこのミッションは行われた。

2017年は『再発見される言葉たち』の法制化を提起した記念すべきイベントであった。

イタリア各地域に“良い”地域精神保健を実現すべく開催されたこのイベントについてはまた後ほど言及しよう。



『再発見される言葉たち』 2008年 ジロ・ディ・イタリアの旗





特別イベント：“北京行きの急行電車に乗って”

2007年、当事者・家族・専門職・市民ら総勢208名からなる団体が、
ヴェネツィアを出発し、北京へと向かった。

(マルコ・ポーロの旅のオマージュである)

イタリアの北から南、ほぼあらゆる州から集まった
『再発見される言葉たち』メンバーからなるグループは、
シベリアを横断する鉄道の客室で二十日間を共に過ごし、
スティグマや偏見に立ち向かう決意、
ファーレ・アッシエーメ手法の重要性を再認識した。

途中で立ち寄った
ブタペスト、モスクワ、イルクーツク、ウランバートルでは
現地の精神医療を視察。

最終目的地の北京に到着した私たちは
中国精神保健局の代表者たちと面会。
興味を示す中国の精神科医らに、メンバーの熱意と結束、
この特別イベントの持つ価値を伝え、交流した。

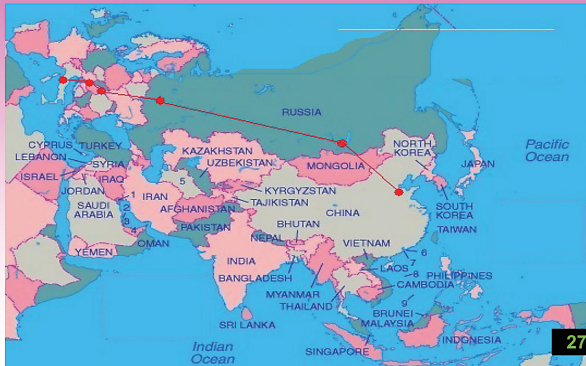


特別イベント：“北京行きの急行電車に乗って”





特別イベント：“北京行きの特急列車に乗って”





特別イベント：“ムイエイエ(ケニア)に学校建設”

伝説の“北京への旅”が終了した後、

『再発見される言葉たち』は、次に挑戦すべき新たな特別イベントを模索した。
世界をより良くする活動に、精神保健が主役として貢献できると示すのだ！

そんな活動が、スティグマや偏見に対峙し、

各自が暮らす地域の中で、

市民としての権利を完全に享受できる世界へと繋がっていくのだ。

我々の思いは、様々な欠乏に苦しむアフリカ大陸に向けられた。

教育を受けられず、尊厳に満ちた生活を拒否された多くの若者たちがいる、
貧困に苦しむ村々に…。

FARESSIAMO
LA "NOSTRA"
SCUOLA A
MUYEYE

un ramo di follia
fa bene all'albero della vita



貧困に苦しむケニアのムイエエ村。
そこでは私たちと交流のある団体が既に活動していた。
交流を更に深め、この村に職業学校を開設することで、
村の数百名の若者が人生を切り開けることを、私たちは理解した！
各団体に寄付を募り、そして2年後に学校が建設され、
最初の学生を迎え入れることができた。

これは大海の中の一滴の雫に過ぎないのかもしれない。
しかし、この1滴は遠くにある2つの世界をも結びつけるのである。
アフリカの貧困や生活の脅威・・・精神疾患の苦悶・・・
そんな中でも希望の芽を育てることができる。

この2年間で、
400人を超える『再発見される言葉たち』の友人たちが、この村を訪れ、
学校の完成を見守った。村の住民たちと強い友情の絆を結んだ。

これも、今でも続くファーレ・アッシエーメの一例である。
学校が活性化と共に、極貧のムイエエ村は、
救いと希望の灯のある場所になった。

FAREASSIEME
LA "NOSTRA"
SCUOLA A
MUYEYE

un ramo di follia
fa bene all'albero della vita

特別イベント：“ムイエイエ(ケニア)に学校建設”



FAREASSIEME
LA "NOSTRA"
SCUOLA A
MUYEYE

un ramo di foglia
fa bene all'albero della vita



特別イベント：“ムイエイエ(ケニア)に学校建設”



FAREASSIEME
LA "NOSTRA"
SCUOLA A
MUYEYE



un campo di follia
fa bene all'albero della vita



LE PAROLE RITROVATE

特別イベント：“ムイエエ(ケニア)に学校建設”

Message From The Principal

Welcome to Muyeve Vocational Training Center and Respect for human dignity.

Muyeve VTC is grateful to the Municipality established in 2010 with the final goal of RITROVATE and nurturing it up to the present.

Muyeve is among the best vocational training centers.

The objective of establishing the center is to benefit the people in the region and Kenya as a whole.

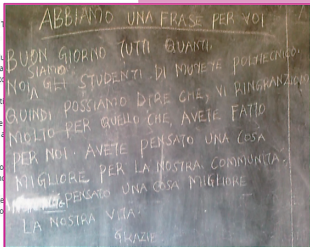
We assure the community that our center is for the benefit of the people around and beyond.

Last but not least; I acknowledge the Municipality Trainees in the achievement of our goals.

LEARN MORE

FAREASSIEME
LA "NOSTRA"
SCUOLA A
MUYEVE

un ramo di folia
fa bene all'albero della vita



Mr. Mwalimu Maitha
Principal



特別イベント：“コーチ(インド)に精神保健センター開設”

あと数ヶ月で「希望再生の家」に
“精神科収容所”で暮らしていた約50名の女性当事者が入所してくる。
イタリアの精神保健センターに倣いつつ、インドの文化習慣も適合させた
新しい精神保健センターが開設されることになった。

インドにとって全く新しい試みが始まる。このきっかけは、
トスカーナ州プラートのドミニコ修道女会の決意から生まれた。
インドで精力的な活動をしてきた同会は、目的にふさわしい建物を準備し、
プラートの精神保健界隈の人々も巻き込んでいった。

そして…『再発見される言葉たち』に協働の打診があった。
国際的な冒険イベントに経験豊富(!)な私たちに拒む理由はなかった。
コーチに赴き、精神保健センターの開設まで伴走した者もいる、
“ファーレ・アッシエーメ”の原則と実践を標榜する
新しい精神保健センターのワクワクする挑戦が始まる！

あなたも、このチャレンジに参加大歓迎！



特別イベント：“コーチ(インド)に精神保健センター開設”





このような“普通じゃない特別な”イベントは…

“普通じゃない特別な”イベントは、やりすぎだろうか？
しかし、私たちの運動にとって根源的な意味合いがあるのだ。

- メディアへのインパクトは、精神疾患に対するスティグマや偏見を地域から減少させる働きがある。
- 精神患者の社会的包摂を促進し、基本的尊厳を守ることに結びつく。
- 精神保健の世界に暮らす主人公たちに、ポジティブな意味合いで世間が注目する。

地域社会におけるスティグマや偏見が減少すればするほど、
精神疾患の治療経過は更に改善していく。
これは科学的に実証されている事実だ。



中でも格別の特別イベント： 市民提案による“第181号法案”の提案

1978年の第180号法により、イタリアは精神病院を閉鎖した世界初かつ唯一の国として、精神医療界で有名になった。実際のところ、第180号法は多くの議論を引き起こし賛成派と反対派にイタリアを二分したのである。

私たち『再発見される言葉たち』としては、第180号法は倫理面、また精神保健サービス運営面からも非常に意義のある法だと思う。精神病院の閉鎖は、何千人もの人々が治療そして人間性も欠如した“強制収容所”生活を余儀なくされた時代への終止符を意味した。この成果は間違いなく、素晴らしい！

しかし、第180号法にも限界がある。地域精神保健サービス実行に関する規定が、法文上明確さに欠けているのだ。イタリア全土で精神疾患問題を抱えて生活する当事者・家族に、効果的な対応を随時提供するためには、明確な指針が必要なのである。第180号法の限界がもたらす問題は、地域精神保健サービス構築に関する最初のガイドライン発足が1999年であったことを考えれば明らか・・・1978年から実に21年も(!)かかっているのだ。



中でも格別の特別イベント： 市民提案による“第181号法案”の提案

しかし、21年かかった1999年ガイドラインも、各地域がそれぞれ、ちぐはぐに活動している現状を改善するのに十分ではなかった。これが「まだらのヒョウ柄」のような状況を
生み出している。同じ州内であっても
場所によって良い治療と悪い治療が混在しているのだ。
サービスを統括する自治体や職員次第、という状況だ。

『再発見される言葉たち』はこの現状に大変心を痛めている！
だから、実現可能な改善方法を希求した…

ここから市民提案の法案提出というアイデアが生まれた。
通称“181号法案”-180号法の続法という意味合いだ。



必要署名数を集める活動も影響し、
私たちの提案は波紋を広げることとなった。

第180号法の重要性は変わらずとも、
イタリア全土に“良い”地域精神医療が発足する礎となる
国内法制定の必要性について、活発な議論がイタリアに再燃した。

提案の目的は、システムを機能させること。

地域に根ざした精神保健局を提唱し、
関係者内で共有された治療プロセスの中心に、当事者・家族を据えること。

ESP（経験知を生かした当事者専門職）の導入。

即時かつ効果的な急性期対応、拘束の廃止、
ニーズに応える居住、就労支援など。

2012年以降、私たちの『180号法案』は影響力を保ち、議会に到達。

2014年、当時の政権与党によって採択。

私たちはほぼゴールに到達していた…しかしその後政権与党が失墜。

また全てをゼロから始めることを余儀なくされた。

イタリアは依然として「まだらのヒョウ柄」状態にあり、
数千人の当事者や家族が正当なケアを受けられないでいる。



LE PAROLE RITROVATE



Le Parole ritrovate
il fareassieme nella salute mentale

PROPOSTA DI LEGGE "181"

Con lo sguardo rivolto al futuro



PROPOSTA DI LEGGE "181"

Con lo sguardo rivolto al futuro



Le Parole ritrovate
IL FAREASSIEME NELLA SALUTE MENTALE

2019年、『再発見される言葉たち』の歴史を綴った書籍出版



Le Parole ritrovate sono un movimento che negli ultimi vent'anni ha cercato di **rivoluzionare la salute mentale in Italia**. Lo ha fatto in maniera «dolce»: attraverso la passione e l'impegno quotidiano di migliaia di persone. La rivoluzione di Le Parole ritrovate si ispirano a un principio: dare voce alle persone. Fare in modo che anche utenti e familiari abbiano un ruolo attivo e siano coinvolti nelle decisioni che contano attraverso quell'approccio che è diventato noto in tutta Italia come fareassieme. Un principio semplice, ma purtroppo non scontato.

Libro

Prefazione (F. Folgheraiter)

Introduzione: Perché Le Parole ritrovate?

La storia di Le Parole ritrovate

I quattro principi ispiratori

La rivoluzione dolce del fareassieme

Da nord a sud: gli incontri in tutta Italia

Le buone pratiche del fareassieme

Il fareassieme nelle nostre vite

Il giro del mondo con il fareassieme

La proposta di Legge: dalla 181/2013 alla 431/2018

Verso il futuro



最後に、願いを込めて

イタリアの『再発見される言葉たち』は、
当事者と家族を治療の“主役”として“中心”に置くことを、
そして責任と自主性、尊厳とクオリティ・オブ・ライフを
彼らの人生に取り戻すことに努めてきた。

専門職が患者に「こうなさい」と指示する
生物医学的アプローチに代わり、ファーレ・アッシエーメを提唱している

そこではリカバリー・プロセスと連動し、
当事者が自らの人生のハンドルを握る。
地域の隅に追いやられていた生活から抜け出す。

日本の友人たちへの願い—それはここ日本に於いても
当事者に治療の中心・主役としての役割、責任と自主性、
自尊心と「生きる意味があった」と思える人生を与えるような
『再発見される言葉たち』のネットワークが誕生すること！



本日皆さんにお会いできて、
本当にありがとう！
Grazie(グラッツィエ)！

